

# 子どもと大人のサードプレイスの役割と人材に関する研究

平野 知見

キーワード：サードプレイス、プレイグループ、  
行動指向、人材育成

## 1. 研究の背景と目的

日本では、新型コロナウイルス感染症の位置づけが、これまで、「新型インフルエンザ等感染症（いわゆる2類相当）」としていたが、2023年5月8日から「5類感染症」となった。変更された点は、政府として一律に日常における基本的感染対策を求めない、感染症法に基づく新型コロナ陽性者及び濃厚接触者の外出自粛は求められない、限られた医療機関でのみ受診可能であったが、幅広い医療機関において受診可能、医療費等について健康保険が適用され、1割から3割は自己負担が基本となるが、一定期間は公費支援を継続、という点である（厚生労働省HP、2023）。つまり、法律に基づき行政が様々な要請・関与をしていく仕組みから、個人の選択を尊重し、国民が自主的な取組をベースとした対応が変わるということであった。3年前を振り返ると2020年4月7日に東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡の7都府県に最初の新型コロナウイルス緊急事態宣言が出され、4月16日に対象が全国に拡大された。この緊急事態宣言発令以降、学校園が休校休園し、登校登園できなくなった子どもたちは自粛、ステイホームは遊び場・縦のつながり等の喪失

に加え、心理的身体的ストレスが増えた。また働く親は家庭内での仕事と家事の両立、仕事に家事に集中できないことに対してストレスを抱えてしまい、他者との関わりがより少なくなり孤立してしまう保護者が増えたという記事も多く取り上げられた。この間、人の密を避ける自粛モードが様々な学校園行事、クラブ活動、地域の活動や祭りの中止、そしていわゆる冠婚葬祭についても実施困難と判断するなど、過剰と思われるほど自粛を強いられ、人との接点が失われた。2023年3月13日からマスクの着用は個人の判断が基本（厚生労働省HP、2023）となったが、マスク着用そのものが習慣的にも楽と感じる人、マスクを常時つけることで他者の目を気遣うことが減ったという側面をメリットととられる人もいるだろう。ただ、そのような人たちが増えたと仮定するならば、多世代間のパラレルな人生観から、交友の道へとつながるかは難しいと感じる。

上記の状況から筆者は、子どもや大人のサードプレイスづくりの必要性を問い、どのような人的・物的環境で、そのサードプレイスを提供できるのか検討し始めた。本稿は、サードプレイスの役割と人材に着目し、役割を改めて概観し、サードプレイスの概念に近いオーストラリアのプレイグループ（Playgroup）に焦点をあて、どのような人材を輩出すべきなのか、そしてどのような行動指向の視点をもって活動を

実施するのかを明らかにし、日本へのサードプレイス構築に向けての示唆を得ることを目的とする。

## 2. サードプレイスの実際

### (1) サードプレイスとは

本稿のキーワードでもあるサードプレイスとは、アメリカの社会学者であるレイ・オルデンバーグ (Oldenburg, R., 1989) が示した概念である。その町の居場所を、第1の場所 (家庭)、第2の場所 (職場: その人が最も長く時間を過ごす場所) に加え、第3の場所 (市民が憩い交流できる場所、より創造的な交流が生まれる場所)、邦訳版では副題に「とびきり居心地のよい場所」と訳されているが、その第三の場が生活者の暮らしの質を高めるといふ。オルデンバーグがこのサードプレイスを提唱する際にアメリカ社会を改めて俯瞰した頃、アメリカの社会的特徴は自動車依存型の都市社会であり、家庭 (第1の場所) と職場 (第2の場所) を往復するだけの状況と観た。その都市化が高まることでサードプレイスが消滅し、オルデンバーグがサードプレイスの概念を改めて提唱することにより警鐘をならしたのである (石山、2016、p.114)。オルデンバーグが示したサードプレイスの8つの特徴については以下に示す。

表1: レイ・オルデンバーグによる  
サードプレイスの8つの特徴

特徴のキーワード	具体的内容
① 中立性 (ニュートラル・グラウンド)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人が自由に入出りできる</li> <li>・誰も接待役を引き受けずに済む</li> <li>・全員がくつろいで居心地よいと感じる</li> </ul>
② 社会的平等の担保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰でも受け入れる</li> <li>・敷居が低く、正式な会員資格や入場拒否の基準がない</li> <li>・地位や身分に関わらず、人柄の魅力や雰囲気を重視する</li> </ul>
③ 会話が中心の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元気があって、束縛がなく、熱っぽい会話が行われる</li> </ul>
④ 利便性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人で出かけていける</li> <li>・長時間開いていて1日のどんな時間帯にも利用できる</li> <li>・定期的に訪れられる</li> <li>・近場にある</li> </ul>
⑤ 常連の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その場所に特色を与える</li> <li>・にぎやかな雰囲気を作る</li> <li>・新参者を受け入れる</li> </ul>
⑥ 目立たない存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物理的構造は地味で飾り気がない</li> <li>・ほかの用途で造られた、古くからある場所</li> <li>・商業主義的でない</li> </ul>
⑦ 遊び心のある雰囲気	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊び場としての役割</li> <li>・思いのほか長居をしてしまう</li> </ul>
⑧ もう一つのわが家 (感情の共有)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人々を根づかせる</li> <li>・慣れとともに進む私物化</li> <li>・社交の再生の場</li> <li>・存在の自由</li> <li>・ぬくもりのある場</li> </ul>

※レイ・オルデンバーグ (2013)、石山 (2016)、Dest (2021) より筆者抜粋・作成

上記のようなサードプレイスの特徴を石山 (2016) は、「…多様で異質な人々が、自分の社会的立場を気にせず、気軽に集まり交流できる場… (中略) …その交流からは知識創造も期待

できる。」(p.114) と言い換えている。

## (2) 日本におけるサードプレイスとは

日本におけるサードプレイスについての例として、小林・山田(2014)がサードプレイスを2区分し研究している。若年者が地域社会に関心を持ち繋がるきっかけとなるサードプレイスの創出という目的のもと、交流の場としてのサードプレイス機能(交流型)と自分の時間を過ごす場としてのサードプレイス機能(マイプレイス型)を有機的に結びつけるサードプレイス創出モデルの検討を行っている(p.11)。また、コロナ禍を過ごしSNS含むバーチャルな空間でのやりとりも新たなサードプレイスとして位置づけられる傾向がより高まっている。例えば、すでに高谷(2019)は、SNSのサードプレイスとしての可能性について調査を行った。SNSの一つであるTwitterが、現実社会では孤立しがちな子育て主婦にとって匿名で育児中のストレス発散や悩みを吐露することにより、相談する場となり、気軽に参加できるサードプレイスとして有効利用され、機能しているという実態を明らかにしたのである。このようにサードプレイスがハイブリッドで位置づけられ、一人の空間を保持し、バーチャルな空間で他者とつながっている形式もサードプレイスとして有効的な場かもしれない。筆者は本稿においてSNSの発展前の時代にレイ・オルデンバーグがサードプレイスを提唱した意味、著書の題名(邦訳)にもあるように「コミュニティの核になる『とびきり居心地よい場所』」に気軽に立ち寄ることができ、他者との対話はその核の大きな要素であるという立場でサードプレイスを位置付けることを前提とする。

## 3. オーストラリアのプレイグループ (Playgroup) の実際

ここでは、コミュニティにおける親子の子育て支援、遊び場として位置づけられ、「サードプレイス」の概念に近いオーストラリアのプレイグループ(Playgroup)に焦点をあて、どのような人的構成での活動なのか、どのような理念や目的をもって実施されているのか具体的な詳細を探る。

### (1) プレイグループの種類と目的

オーストラリア全土には家庭に遊び体験を提供する様々な種類のプレイグループが存在する。

プレイグループは一般的に、「コミュニティ」型プレイグループと「サポート」型プレイグループの2つのカテゴリに分類される(Commerford & Robinson, 2016)。全てのプレイグループは、子どもたちに発達上適切な遊びの機会を提供し、ケアラーが社会的支援ネットワークとピアサポートを開発する機会を提供することにより、子どもたちとそのケアラー(carers:「ケアラー」という用語は、両親、祖父母、里親を含むがこれらに限定されずプレイグループに参加するすべての成人を表すために使用)に利益をもたらすことを意図している(FAHCSIA, 2011)。

プレイグループの運用方法には大きな違いがある。例えば公園で運営しているプレイグループは、多数の家庭を対象に、プレイグループごとに複数のセッションを行う場合があるが、郊外の小さなプレイグループでは、参加する家庭数をはるかに少ない場合がある。

「コミュニティ」型プレイグループは、すべての家庭を含め、子どもたちが遊びを通して学び、成長する機会を提供することを目的として

いる (FAHCSIA, 2011)。それらは、州または準州のプレイグループ組織の支援を受けて、そのプレイグループに参加するケアラーが中心となって運営される (Commerford & Robinson, 2016)。「コミュニティ」型プレイグループは、ケアラーが社会的につながり、サポートネットワークを構築する機会を提供し、子どもたちが遊びを通して他者と交わり、学び、社会的、情緒的、身体的スキルを発達させる機会を提供する (FaHCSIA, 2011)。「サポート」型プレイグループは、「コミュニティ」型プレイグループに参加できない可能性のある特定のニーズや脆弱性を持つ家庭 (社会的に孤立した家庭や不利益を被った家庭など) をサポートすることを目的としている。「サポート」型プレイグループは、少なくとも1人の有給ファシリテーターによって運営されており、子どもとその親の発達とウェルビーイングをサポートする二点に焦点を当てている (Jackson, 2013)。またケアラーが出会い、経験を共有し、子どもたちが遊び、学ぶ、そして他者と交流する機会を作ることをサポートする (Boddy & Cartmel, 2011; CCCH, 2011; Jackson, 2011, 2013)。

次に「サポート」型プレイグループの目的について以下に示す。

- ・子どもの発達と幼児教育に関するケアラーの知識を増やす。
- ・ケアラーに情報とリソースへのアクセスを提供する。
- ・発達上のニーズを特定する機会を設け、適切なサービスへの紹介を提供する (Jackson, 2013)。

また、プログラムや介入策を提供するための基盤としても利用される (Commerford & Robinson, 2016)。

## (2) 「コミュニティ」型プレイグループの歴史的背景

Playgroup Australia (2013) によると、オーストラリアでは「コミュニティ」型プレイグループは、1970年代から盛んになっている。現在、8,000以上の「コミュニティ」型プレイグループが毎週、教会のホール、公園、地方自治体の建物などに集まり運営されている。また毎週、200,000人の保護者が、自分たちの「コミュニティ」型プレイグループを自主的に組織し、参加している現状である。この運営に関わる情報提供や立ち上げ、参加費等の管理など集約しているのが、先に挙げた全国NPO法人 Playgroup Australia である。Playgroup Australia は、ACT Playgroups、Playgroup NSW、Playgroup NT、Playgroup Queensland、Playgroup South Australia、Playgroup Tasmania、Playgroup Victoria の州支部の元にコミュニティプレイグループを組織している。なかでも、Playgroup NSW は、遊びを通して家庭やコミュニティが学び、成長することをサポートし、2022年には50周年を迎えた。もともとバルメイン (Balmain) のラウンジルームで母親たちが始めた Playgroup NSW は、現在75人の従業員、900人のボランティア、約38,000人のメンバーを抱える近代的なサービス組織に成長しており、遊びを通じた早期学習と発達への道を切り開く柱となっていると報告された (Playgroup NSW Community Impact Snapshot, 2020)。

## 4. 質の向上に必要なプレイグループ原則 (The Playgroup Principles)

### (1) 質向上に必要なプレイグループの9原則

プレイグループ原則 (Playgroup Principles) は、オーストラリア家庭研究所の Child Family Community Australia (CFCA) チームによって

策定された (Joanne & Cathryn, 2017)。原則を策定するために、Joanne & Cathryn (2017) は、プレイグループへの資金提供、計画、調査、および運営の経験を持つ専門家とのワークショップを開催し、参加者はオーストラリア全土から実践者を集め策定のための研究調査を行った。検討を重ね、質向上に必要なプレイグループを支える9つの主要原則が策定され、それぞれの原則は、プレイグループの中核的な特徴を示している。以下がその9原則である。

- ① プレイグループは遊びが目的である。
- ② プレイグループは、子どもに焦点を当て、子どもを包括し、発達段階に応じて行われる。
- ③ プレイグループは、つながりを大切にしている。
- ④ プレイグループは居心地の良い場所である。
- ⑤ プレイグループは文化的な配慮がある。
- ⑥ プレイグループは柔軟に対応する。
- ⑦ プレイグループは、強みに基づいた強化のためのものである。
- ⑧ プレイグループには、組織レベルのサポートとガバナンスがある。
- ⑨ 「サポート」型プレイグループでは、熟練したファシリテーターが家庭を巻き込み、地域のサービスにつなげている (Joanne & Cathryn, 2017)。

以上が主要原則である。次にそれぞれの原則をプレイグループがどのように考え実行すべきか等の行動指向について、概観する。

## (2) 9原則に関する行動指向

### 1) 第1原則の行動指向

第1原則として、プレイグループは遊びが目的であるが明記された。遊びはプレイグループ

の重要な要素であり、質の高いプレイグループは、遊びに基づいた学習の機会を提供し、すべての活動に遊びを組み込んでいる。また遊びは子どもたちに多く学びの機会を提供し、一般的に子どもとケアラーに楽しさ、構造的または非構造的な遊び体験を提供し、積極的な子どもの発達をサポートするための遊びに基づく質の高い学習の機会を提供する (DEEWR, 2009)。

遊びは自由に選択され、本質的な動機付けがあり、自発的で楽しいものでなければならない (Brockman, Fox & Jago, 2011)。また遊びは子どもたちに多くの利益をもたらし、言語と識字能力、社会性と数学的能力の発達に関連している (Hancock et al., 2012) という。よってプレイグループは、遊びに基づく学習環境を提供することにより、積極的な子どもの発達をサポートすると考えられる。2009年に初めて全国のナショナルカリキュラム (就学前) として制定されたオーストラリアの初期学習フレームワーク (The Early Years Learning Framework from Australia) の中で、遊びに基づく学習を「子どもたちが人、物、表現されたものと積極的に関わりながら、社会的世界を創り、理解するための学習」(DEEWR, 2009, p.6) と定義している。プレイグループを訪問している専門家も、プレイグループでの焦点となる遊びを損なわないよう、この初期学習フレームワークを念頭におき、遊びに基づく活動や家庭とのインフォーマルな議論を通してサービスを提供するよう示している。プレイグループの中心的構成要素として遊びを優先することにより、プレイグループが、子どもの発達のための遊びの価値と重要性をケアラーに強調することとなる。これは、プレイグループが子どもと関わるケアラーに対して自信と能力を構築する役割を果たすこととなり自宅で遊び体験を継続することにもつながる。プレイグループに参加している実践者は、多様な

背景や不利な背景によって個人的な遊びの経験がほとんど、または全くないケアラーに対しても遊びの利点を伝え強調できる (Joanne & Catheryn, 2017)。

プレイグループは、ケアラーが開放的な遊び (open-ended play) を通して子どもと関わるように促している。開放的な遊びは、構造化されていない自由に流れる遊びとして定義され、子どもたち自身が何をするか、どのように行うか、何を使用するかを決定する (Bruce, McNair & Siencyn, 2008)。植物、木、食物を栽培している庭、砂、岩、泥、水などの要素を含む屋外の遊び場は、開放的な遊びを促進し (DEEWR, 2009)、プレイグループでの遊びの活動は家庭用品やリサイクル材料を利用して、簡単に手に入る既製品 (つまり、ゲームやおもちゃ) ではなく、プロセス (体験) や、様々な場所や手法で子どもたちと一緒に展開できることをケアラーに示すことができる。例えば Playgroup WA の「Playideas」リソースは、リサイクルされた段ボール、プラスチックチューブ、リサイクルされた箱を使用したプレイグループの活動、及び家庭でのバリエーションを提案している。具体的には、プレイグループで子どもたちはペイントとテープを使用してリサイクルボックスから消防車を制作するような提案や、家庭では空のシリアルやティッシュ箱とつなげることで造形的創造的な遊びに発展させることも提案できると紹介している (Joanne & Catheryn, 2017)。また、質の高いプレイグループのプログラムには、構造化されたアクティビティと構造化されていないアクティビティが組み合わされており、ストーリータイム、歌、ダンス、スナックタイムなどの他のより構造化された共同アクティビティと一緒に自由形式のプレイ用のスペースが環境として設定される。グループ全体のおやつ時間は、栄養に関するメッ

セージを促進し、家庭が食べ物を介してつながる良い機会になる可能性がある。これは、プレイグループの専門家が指摘しているように、文化のおよび言語的に多様な (CALD) プレイグループにとって特に重要な時間であると説明している (Joanne & Catheryn, 2017)。

## 2) 第2原則の行動指向

次に第2原則の「プレイグループは、子どもに焦点を当て、子どもを包括し、発達段階に応じて行われる」というように、一人ひとりの子どものニーズと個々の視点や経験を受け入れ尊重することが前提である。ケアラーが参加し、子どもの成長を支援するスキルをさらに発達させること、そして支援的で協調的な環境で発達の適切な活動を提供することにより、子どもの発達 (認知的、社会的、情緒的) を支援することにつながる (Joanne & Catheryn, 2017)。

質の高いプレイグループは、子どものニーズをサポートされるよう環境を整えている。子どもに焦点を当てることにより実践される包括的なアプローチは、子どものニーズ、安全、福祉を実践の中心に置き、組織に次のことを求めている。

- ・発達の各段階にわたる子どもの発達上のニーズを理解すること。
- ・子どもたちは彼ら独自の視点と経験を持っていることを認識すること。
- ・子どもたちが自分たちに影響を与えるような決め事に参加する適切な機会を提供すること (Hunter & Price Robertson, 2014)。

つまり、子ども中心主義の考え、そして子どもの参加する権利への理解を組織に求めているのであろう。幼児期は、子どもの学習と発達に不可欠な時期である (DEEWR, 2009)。プレイグループは、オーストラリアの初期学習フレームワークで概説されている学習成果、原則、実

践に合わせてプレイグループを調整することで、子どもの学習と発達のニーズを認識することができる。このフレームワークは、幼児教育における質の高い実践を支える5つの主要な原則(Principles)を概説している。

- ① 安全で、敬意を持った相互関係
- ② 家庭とのパートナーシップの構築
- ③ 子どもたちの学習と公平な実践
- ④ 多様性の尊重
- ⑤ 保育者のための継続的な学習と反省的实践 (DEEWR, 2009)

上記のフレームワークについては、子どもを中心に置き、先に示した5つの主要な原則を含んでいる「Principles (原則)」、そして「Practice (実践)」と「Learning Outcomes (学習または学びの結果)」から構成されており、これらの3要素が保育方法や保育者のカリキュラム等の作成においての土台となる (DEEWR, 2009)。

プレイグループは、グループの興味関心に合わせた発達上適切な活動や施設へのアクセスを子どもたちに提供することにより、子どもの発達を支援することができる。質の高いプレイグループは、屋外の活発な遊びから屋内のアクティビティや読み聞かせ・歌の時間まで、グループ内の子どもの年齢と発達上のニーズに適したアクティビティの組み合わせを提供している。また子どもとケアラーが自分の興味や好きなことを共有する機会を作り、これらの視点を満たすために活動を調整することにより、子どもとケアラーを大切にする協働的な環境(collaborative environment)を生み出す (Joanne & Catheryn, 2017) ことにつながるのである。この協働的な環境について具体例が提示されている。まずケアラーが家庭と協力して参加を促し、参加について抵抗がない場合はグループの貢献につながるという。例えば、プレイグループに参加しているケアラーが、ファシリテ

ーターと協力して子どもの活動を選択するように促され、サポートされている場合(例えば、子どもが興味を持っているテーマやトピックを提案する)、子どもの学習体験がより意味のあるものになる可能性が高まるという。さらに、ケアラーが定期的に子どもと関わり、活動の準備や参加を支援する場合、ケアラーに、プレイグループの内外で子どもたちの成長をサポートするスキルをさらに高める機会を提供する可能性がでてくる。これはまた、ケアラーがプレイグループへの帰属感や、参加しているという気持ちを強化する可能性がある (Joanne & Catheryn, 2017) と示している。

### 3) 第3原則の行動指向

次に第3原則の「プレイグループはつながりを大切にする」について以下でその行動指向を概観する。

プレイグループのグループ体験は、次のよう  
な多くのつながりの機会を生み出すという。

- ・ケアラー間とのつながり
- ・ケアラーと彼らの子ども間とのつながり
- ・子どもたちとの間とのつながり
- ・家庭と地域社会とのつながり (Joanne & Catheryn, 2017)

調査によると、ケアラーがプレイグループに参加する主な理由の1つは、帰属意識を育むことであるという (Harman, Guilfoyle & O'Connor, 2014)。支援的なソーシャルネットワークを構築し、友情を育み、情緒的かつ社会的支援を見つけることは、コミュニティのプレイグループに参加することに関連する潜在的メリットの一つであると言える (Hancock et al., 2015; Gibson, Harman & Guilfoyle, 2015; Harman et al., 2014)。研究によると、社会的支援は、基本的な社会的ニーズを満たし、社会的統合を強

化し、健康に対するストレスの影響を仲介し、急性的ストレスの多い出来事から発生する可能性のある害から、ある程度保護することにより健康状態の結果を改善できることがわかっている (Hanna et al., 2002)。これは、ケアラーがリラックスしてインフォーマルな方法で互いに交流し、言葉を交わす機会があることを確認しなければならないということを示しているだろう。しかし、脆弱で社会的に不利な立場にあるケアラーは、地元のコミュニティのプレイグループから孤立したり、取り残されたりしていると感じる可能性がある。彼らは、同様の環境におかれた他のケアラーとプレイグループで交流することを好む可能性もある (Gibson, Harmon, & Guilfoyle, 2015; Strange, Fisher, Howat & Wood, 2014)。「サポート」型プレイグループは、「コミュニティ」型プレイグループに効果的に参加できない可能性のある家庭にとっての選択肢の一つであり、調査・評価の調査では、「サポート」型プレイグループに参加している家庭にとって同様の社会的利益が示されている (Commerford & Robinson, 2016)。

プレイグループは、ケアラーが子どもとつながる機会を生み出す。効果的なプレイグループは、プレイグループの中にケアラーが子どもとともに参加し、交流することを奨励するように設計された活動を設定する。例えば、歌の時間に参加したり、「本のコーナー」で子どもに本を読んだりするようにケアラーを奨励することで、ケアラーのスキルとこれらの分野への自信、そして子どもとのつながりをさらに深めることができる。また家具を配置する場所を慎重に検討することで、これが役立つ場合もある。つまり部屋の周囲に大人用の椅子を配置しないようにするという意識があると、大人が子ども中心の場に参加して交流ができるようになるという (DEECD, 2011)。

プレイグループは、家庭とコミュニティのつながりを強化することができる (Strange et al., 2014)。地域のプレイグループに参加することにより、公園やショッピングセンターなど、家庭間においてインフォーマルな交流の機会が増え、地域で開催されるグループに参加することで、ケアラーの地域へのつながりをより感じることができる (Strange et al., 2014)。ただし、地域のコミュニティグループが利用できないことが影響要因となる可能性がある。例えば、新しい住宅地では、コミュニティのインフラストラクチャー (地域コミュニティの生活を支える施設や空間) とサービスの開発に時間がかかる場合があり (Strange et al., 2014)、農村部や遠隔地では、家庭がつながりをもとめていたとしても自宅近くのグループや他のグループにアクセスできない場合がある。したがって、農村部や遠隔地でのプレイグループは多様な家庭グループに対応し、すべての新しい家庭を歓迎することに留意し準備をする必要がある (Joanne & Catheryn, 2017)。

#### 4) 第4原則の行動指向

次に第4原則「プレイグループは居心地の良い場所である」の行動指向について概観する。

プレイグループは、参加を希望する家庭がアクセスできる安全な環境である。また質の高いプレイグループは、子どもの安全のための活動に取り組み、ケアラーと子どもが共に遊び、つながるための文化的、物理的、情緒的に安全空間を提供する (Joanne & Catheryn, 2017)。安全性の定義は以下のとおりである。

- ・身体的、性的、情緒的、心理的、文化的な虐待・ネグレクトから子どもたちを守るために意図的な措置を講じている組織 (CCYP, 2015, p.9)
- ・文化的に安全な組織とは文化を超えて、人々が交流し、コミュニケーションをとり、理解す



ることのできる能力を有している組織 (DEEWR, 2009, 詳細は、原則7を参照)

・物理的に安全な環境であれば、子どもたちは安全に過ごすことができ、スタッフは子どもたちを支援し交流することができる。加えて、建物、敷地、設備や家具の安全性を確保すること、また危険な製品の安全な貯蔵・使用によりリスクを最小限に抑えることができる (National Childcare Accreditation Council, 2006, p.2)。

・情緒的 (心理的) に安全な環境とは、ケアラーや子どもたちが、恥ずかしい思いや、嘲笑されたりすることを恐れず、安心して対人関係のリスクを取ることでできる環境 (経験やアイデアを試すなど) (Wanless, 2016) のことである。上記のように、子どもにとって安全な組織とは何かを具体的に示している。

質の高いプレイグループは、包括的で温かく居心地の良い空間である。幼児教育の中でのインクルーシブ (包括的) な実践とは、家庭や専門家が協力的に情報に基づいた方法で活動の決定までに考慮を重ねる (Owens, 2012)。オーストラリアの初期学習フレームワークは、質の高い学習環境を「それぞれの子どもの興味や能力に対応する活気に満ちた柔軟な空間。様々な学習能力や学習スタイルに対応し、子どもたちや家庭にアイデアの提供をもらう。」 (DEEWR, 2009, p.15) といった環境であると述べている。この説明は、インクルーシブな実践を反映していると言える (Owens, 2012)。

プレイグループは簡単にアクセスが可能であり、十分なりソースが用意されているため、家庭は低コストまたは無料でアクセスできる (プレイグループの種類によって異なる)。この原則の策定までに協力した実践者は、地理的に孤立、または文化的・言語的に多様な (CALD) 家庭のために運営されている「サポート」型プレイグループを、全プレイグループの家庭が利

用できるようにすることを提案するなど、アクセシビリティに関していくつかの提案をした (例、ヘルスケアカード)。また、プレイグループに簡単にアクセスできるように、自宅や公共交通機関 (利用可能な場合) から徒歩圏内にある適切な場所 (幼稚園やコミュニティホールなど) で開催し、屋内と屋外のプレイスペースを準備する必要がある。これは乳児にとって適切で安全なものである (Joanne & Catheryn, 2017)。

## 5) 第5原則の行動指向

次に第5原則の「プレイグループは文化的な配慮がある」に関する行動指向を概観する。

プレイグループは、家庭にとって、遊びや社会的つながりの目的で集まる文化的に安全な場所であり、文化的に特定の家庭と非文化的に特定の家庭の両グループが含まれる。つまり、文化的安全性とは「人々にとって安全な環境、つまり彼らのアイデンティティや彼らが誰であるか、そして彼らが何を必要としているかについて、主張や否定されることのない場所。それは、尊敬の念、意味、知識と経験を共有し、尊厳を持って共に学び、生き、働くことであり、真に耳を傾けること」 (Williams, 1999, p.213) であると定義した。

プレイグループは、異なった文化的グループのニーズに適応し、その文化的遺産や習慣を尊重し行う。初期学習フレームワークは、文化的能力を子どもの学習をサポートするためには不可欠な実践として挙げており、文化を超えて人々を理解し、コミュニケーションをとる際、効果的に交流する能力として定義している。含まれるものとして以下に示す。

- ・自分の世界観を意識する。
- ・文化の違いに対して前向きな姿勢を育む。
- ・様々な文化的慣習や世界観についての知識を得る。

・文化を超えたコミュニケーションと交流のためのスキル向上 (DEEWR, 2009, p.16)。

質の高い「コミュニティ」型と「サポート」型プレイグループは、参加者にとって文化的に居心地がよく、文化的習慣を念頭におき実施している。一部のプレイグループ参加者は、文化的に特定の「コミュニティ」型、または「サポート」型のプレイグループに参加することを好む場合があるという。特に文化的・言語的に多様な移民 (CALD) または難民グループを対象に支援している「サポート」型プレイグループは、ケアラーに文化的に安全で居心地の良い環境を提供でき、社会的支援の構築、子どもの社会的および身体的発達、および彼らに他のサービスに関する情報提供する支援を実施する可能性がある (Commerford & Robinson, 2016)。調査によると、「サポート」型プレイグループは、難民や移民のケアラーに強力な重要な社会的支援の源を提供し、インフォーマルなネットワーク支援の構築を促進し、ケアラーのポジティブな考えや姿勢へと導くために役立つサポート的要因として機能する (Commerford & Robinson, 2016)。また「サポート」型プレイグループは、難民や移民の子どもたちの、小学校への接続準備の支援や社会性を高める機会を設けることにより、彼らの社会的身体的発達を促進する (Commerford & Robinson, 2016)。文化的に特定されたプレイグループの環境は、ケアラーがグループと共有することにより快適に感じる工夫ができる (DEECD, 2011)。ただし、これが不可能な場合は、子どもたちが経験してきた共通点と相違点を取り上げ、ストーリーを共有することにより異なる文化グループ間の相互作用を促進する (DEECD, 2011)。「サポート」型プレイグループは、受容することやすべての家庭に関心を持つというファシリテーターの役割

を通じてより有効的な環境が整う (DEECD, 2011) と考えられている。

次に先住民族の視点から示す。先住民族のための「サポート」型プレイグループは、それぞれのコミュニティにおける先住民族のニーズに基づいて、適応性と柔軟性がある。調査によると、先住民の家庭が参加の維持を継続できる効果的な幼児教育・保育プログラムは、認可外 (プレイグループや親子教育など) で、物理的、文化的にアクセスしやすく、家庭全体に焦点を当てたプログラムであること、そして柔軟でかつ人間関係に重点を置いたアプローチをとっている可能性が高いことが示されている (Leske, Sarmardin, Woods, & Thorpe, 2015)。先住民族のための質の高いプレイグループは、地域社会との信頼と関与を築くためには、長期間にわたり継続して運営される必要がある。これらのプレイグループは、文化的に適切な学習体験についてアドバイスを提供してもらえる地域の人々とも関わりがある (Leske, Sarmardin, Woods, & Thorpe, 2015)。

文化的・言語的に多様である家庭や先住民族の家庭のために「サポート」型プレイグループで実施する具体的な戦略には、以下のものがある。

- ・参加者と同じバックグラウンドを持つバイリンガルのファシリテーターが従事 (可能な場合) する。具体的には食文化や儀式を含んだロールモデリングである。

- ・「サポート」型プレイグループは、プレイグループに参加したケアラーを地域に精通した地域のメンバーとしてファシリテーターまたは有給のアシスタントとなるように訓練し雇用することができる。

- ・定期的な専門的な人材育成の機会と報告会により、ファシリテーターは、独自の文化的洞察と経験を利用して、歓迎的かつ包括的な環境を整え、参加者にとって信頼できる情報提供者と

なることができる。

・先住民族の「サポート」型プレイグループは、地元のつながりのあるコミュニティメンバーと相談して、地域の先住民族の家庭の情報の取りまとめや、地域の高齢者たちをプレイグループに招待したりすることもできる。具体的な例として「サポート」型プレイグループは、家庭が彼らの昔から慣れ親しんでいる食文化としての食事を一緒に準備し、共有し楽しむことを奨励することにより、文化的規範を適切に反映することもできる (Warr, Mann, & Forbes, 2013)。

このように、文化的・言語的に多様な家庭や先住民族の家庭のために「サポート」型プレイグループで実施する場合、より文化的配慮が人的物的にも必須であることがうかがえる。

## 6) 第6原則の行動指向

次に第6原則の「プレイグループは柔軟に対応する」について概観する。

プレイグループモデルは柔軟性があり、ケアラー、子ども、地域社会のニーズに基づいて構造、形式、活動を構成していく。すべてのプレイグループモデルの調査と評価の結果、質の高いプレイグループを実施するための重要な要素として柔軟性を強調している (ARTD, 2008; Williams, Berthelsen, Nicholson, & Viviani, 2015)。

「コミュニティ」型プレイグループモデルには、プレイグループが適応し、参加する家庭のニーズに対応できるよう柔軟なアプローチがある。つまり、「コミュニティ」型プレイグループには多様性があり、同様の経験を抱えた家庭グループに対応できることによって適応する方法がある (たとえば、祖父母、父親、LGBTIQ ケアラー、文化的・言語的に異なった背景を持つグループ、乳幼児のいる家庭、プレイグループ WA, 2016)。また農村部や遠隔地では、プ

レイグループは様々な生活経験をしている小グループの家庭に柔軟に対応できる (ARTD, 2008)。

同様に、オーストラリア全土で運営されている「サポート」型プレイグループは、一般に、規定のコンテンツ、カリキュラム、または特定のルーチンのない柔軟な運営モデルを備えており (Williams et al., 2015)、様々な形式 (モバイルプレイグループ、公園内の屋外プレイグループ、キャラバンパークに設置されたプレイグループ) で実施している。また様々な家庭グループ (不利な状況や社会的孤立を経験している家庭、アルコールやその他の薬物の誤用、または住宅の不安定さについて共通している家庭) の形式が存在しながら運営している。これにより、個々のプレイグループは、メンバーのニーズに合わせて柔軟に対応する必要がある (Joanne & Catheryn, 2017)。

プレイグループに参加するケアラーと子どもたちのニーズに対応し、これらのニーズを満たすように構造、活動、コンテンツ、またはカリキュラムを調整することにより、プレイグループはケアラーと子どもたちの幸福を優先する。よって様々な方法を用いて実施している例として、文化的・言語的に異なった背景があり、新しく到着した移民のための「サポート」型プレイグループでは、ファシリテーターは、利用可能なユニバーサルサービスやプログラムに関するケアラーの知識の欠如を特定し、家庭に地域の健康、教育、コミュニティサービスを紹介する (McDonald, Turner & Gray, 2014)。または、ファシリテーターが、ケアラーが子どもの歯の健康に関する懸念について話し合っていることにファシリテーターが気づいた場合、プレイグループセッションに地域の歯科医療を行っている組織に参加してもらう場合も具体的な例としてある。このように質の高いプレイグループは

ダイナミックであり、グループ内の家庭のニーズの変化に応じて対応する。「コミュニティ」型と「サポート」型プレイグループモデルの両者において、子どもが成長するにつれ変化する発達上のニーズに合わせて活動を調整することを意味する場合もある (McDonald, Turner & Gray, 2014)。

## 7) 第7原則の行動指向

次に第7原則の「プレイグループは、強みに基づいた強化のためのものである」について概観する。

質の高いプレイグループは、ケアラーの強みや能力とリソースに焦点を当て、強み、スキル、知識を認識することにも焦点を当てている。強みに基づいたアプローチとは、ケアラーの足りないところや病態に着目するのではなく、ケアラーの既存のスキルと強みを特定して構築する戦略を活用する (Hunter & Price-Robertson, 2014; Holzer, Bromfield & Richardson, 2006)。このアプローチを通して、ケアラーのリソース、特徴、興味、そして希望が、前向きな変化を及ぼす動機とツールになるとみなしている (Hunter & Price-Robertson, 2014)。事例として、子どもの虐待を防ぐことを目的とした子育て教育プログラムを調査した研究では、プログラムが欠損の観点から運営されているプログラムと比較して、強みに基づくアプローチを使用した場合のほうが、より良い結果を導いている (Holzer, Bromfield & Richardson, 2006) という調査もある。プレイグループは、ケアラーが自分の強みと能力を強化するための場を提供し、ケアラーがコミュニティのつながり、友情、ソーシャルネットワークを強化する機会を提供する。他のケアラーとの新しいつながり、および同様の発達段階にある子どもたちを観察する機会を通じて、ケアラーは互いにインフォーマ

ルに学ぶことができるのである (Jackson, 2011)。

「サポート」型プレイグループは、特別に対象を絞った学習機会を設定することにより、ケアラーの能力をさらに強化する。ファシリテーターは、子育ての自信とケアラーの知識を高めるために、適切な遊び体験をモデル化したり、ケアラーに質の高い子育てへの実践を示したり、スナックタイムには食育に焦点を当て、優れた栄養習慣をモデル化することができる。ファシリテーターは、様々なサービスの専門家がプレイグループに参加し、主要な健康に関するメッセージを示してもらえるように調整する。よってプレイグループは、子どもとケアラーの健康促進プログラムを提供することができる (Commerford & Robinson, 2016)。このように、プレイグループが、ケアラーがもともと持っている強みやスキルを認識することで彼らの子育てや社会的参画への自信につなげ、その力をより強化していくための学習機会を設定することが求められていることが確認できる。

## 8) 第8原則の行動指向

次に第8原則の「プレイグループには、組織レベルのサポートとガバナンスがある」について概観する。

質の高いプレイグループには、ホストとなる組織または州または準州のプレイグループ協会を通じて、組織レベルのサポートとガバナンスが提供される。プレイグループは、連邦、州、地方レベルの政府、非営利団体、教会など、複数の道筋を通じて資金としてあてられる。組織のサポートは、提供するグループと資金調達の方法によって異なるが、すべての質の高いプレイグループは、一部の組織レベルのサポートとガバナンス、州の法律及びコンプライアンス上の要求事項を遵守しなければならない (Joanne

& Catheryn, 2017)。「コミュニティ」型プレイグループは、一般的にケアラーが運営、自己管理、そして参加する家庭から徴収することを通じて資金を受け、地域の州または準州のプレイグループ協会とオーストラリアのプレイグループによってサポートされている。州および準州のプレイグループ協会は、新しいプレイグループの開始、既存のプレイグループへの参加、およびプレイグループの実行に関するガイダンスを提供することとなっている (Joanne & Catheryn, 2017)。

サポートのレベルは、地域の州および準州の資金とリソースによって異なるが、質の高いプレイグループ協会は、プレイグループのコーディネーターに以下の一部または全てを提供する。

- ・プレイグループマニュアルの閲覧
- ・手段（フォーム、サイン、ポリシー、報告書など）
- ・適切な場所を探し、リースを交渉するための支援
- ・新会員を惹きつけるような販促資料
- ・プレイグループ委員会に関するトレーニングとサポート
- ・おもちゃやリソースを含むプレイグループスターターキット
- ・遊びの活動とプレイグループの構造に関するアイデア (Playgroup NSW, 2015)、である。

現在、ほとんどの州と準州では、地域のプレイグループに参加するケアラーは、子どもたちと関わる上で必要な警察によるチェックを受ける必要はない。ただし、この法律は州に基づいているため、オーストラリア全体で差異があり、いくつかの例外がある。

・南オーストラリア州では、コーディネーター、委員会のメンバー、子どもがいないボランティアは、関連する州の履歴に関する許可を得る必

要があり詳細は以下の WEB サイトに記載されている。

([https://www.legislation.sa.gov.au/LZ/C/A/CHILDRENS%20PROTECTION%20LAW%20REFORM%20\(TRANSITIONAL%20ARRANGEMENTS%20AND%20RELATED%20AMENDMENTS\)%20ACT%202017/CURRENT/2017.64.AUTH.PDF](https://www.legislation.sa.gov.au/LZ/C/A/CHILDRENS%20PROTECTION%20LAW%20REFORM%20(TRANSITIONAL%20ARRANGEMENTS%20AND%20RELATED%20AMENDMENTS)%20ACT%202017/CURRENT/2017.64.AUTH.PDF) 参照)

・ノーザンテリトリーでは、学校などの場所で、親コーディネーターが警察のチェックを完了する必要がある (Joanne & Catheryn, 2017)。

プレイグループは、プレイグループに適用される関連法に準拠し、変更があった場合は最新の状態に保つ必要がある。「サポート」型プレイグループの場合、スタッフは子どもチェックと警察チェックを実施する必要がある。プレイグループを支援するボランティア、つまり子どもがいない状態でボランティアをするための法律も、地域によって異なる場合がある。プレイグループは、州または準州の法的要件を定期的に確認するか、地域の州または準州のプレイグループ協会に詳細を問い合わせる必要がある (Joanne & Catheryn, 2017)。警察によるチェックが必要であるという視点は、子どもに関わる徹底的な人物調査をオーストラリアの場合、特に「サポート」型プレイグループの場合、クリアしなければならないというのが示されていると言える。

## 9) 第9原則の行動指向

最後に第9原則『「サポート」型プレイグループでは、熟練したファシリテーターが家庭を巻き込み、地域のサービスにつなげている』について概観する。

「サポート」型プレイグループモデルでは、家庭と交流をするためには、ファシリテーターによる高レベルのサポートが必要である。「サ

ポート」型プレイグループに参加している貧困層地域に居住している家庭を調べた調査では、彼らは主流の「コミュニティ」型プレイグループに参加している家庭とは異なる結果であった。「サポート」型プレイグループに参加している家庭は、子どもの健康管理に関する情報についてのアクセス、理解、申請に関してかなり困難があり、子どもの健康習慣に関する高い懸念を示した (Myers et al., 2015)。同様に、子どもの身体活動に必要な要件に関する親の知識は低かった (Weber, Rissel, Hector, & Wen, 2014)。このような調査結果は、情報を最も必要としている家庭が知るができない可能性があることを示しており (Myers et al., 2015)、熟練したファシリテーションの必要性を浮き彫りにしている。調査によると、家庭が定期的に参加している場合、「サポート」型プレイグループはより多くの利益を得ることが示されている (Berthelsen, Williams, Abad, Vogel, & Nichol, 2012)。プレイグループが家庭参加に関与し、それを維持するための戦略は、参加する家庭のニーズに基づいて変更する可能性がある。プレイグループは家庭を引き付けるために、幼児サービス (保育所、幼稚園、学校など)、母子保健サービスような医療提供者 (DEECD, 2011) 及び地域の近隣センターとのパートナーシップを構築する。プロモーション活動には、公園での無料の楽しい一日イベントの開催、プレイグループのメンバーやイベントのカラー写真を地元紙へ掲載、地域の学校を利用した家庭との出会いや交流などがある (DEECD, 2011)。一方、より不利な立場にあり脆弱な家庭の参加を引き付け、維持するには、さらに検討する必要がある。不利な立場にある (または「アクセスするのが難しい」) 家庭の関与を高めるための手法には、以下が含まれるが、これらに限定されることはない。

- ・家庭がいる場に出向く：つまり家庭の参加を待つのではなく、公園や地域のショッピングセンターなどに行き、家庭とつながり、プレイグループに関する情報を提供し、地域のコミュニティとの関係を築く。貧困家庭は、多くのことに慣れておらず威圧的に感じたり、不便な場所に居住している場合、プレイグループに参加できない場合がある
- ・差別的でなく、威圧的でもない方法でサービスを宣伝、提供する：家庭は差別的、威圧的な言葉に敏感である可能性があるため、参加する家庭 (複雑または複数の問題など) に対してステレオタイプな見方をしたり、プレイグループを「慈善」または「福祉」の概念に関連付けたりすることは避ける必要がある。家庭を尊重し、彼らの「問題」を理解し、学校などの中立的な場にプレイグループをおくことは役立つかもしれない
- ・家庭に力を与える戦略を取り入れる：依存関係を促進するのではなく、プレイグループの計画や運営にケアラーを参加させるなど、家庭がプレイグループに貢献することを奨励する機会を促進する
- ・人間関係を築く：家庭との関係を築く (これは、非判断的で、敬意を表する態度を持ち、励まし、力を与え、温かく、共感することによって支援される); コミュニティ (家庭、特に先住民族の家庭は、地域で認知され、歓迎されている場合、サービスに参加する可能性が高くなる); 他のサービス (他のサービスとの関係をつなげることにより、支援の必要な家庭を見つけ、彼らのニーズを満たすことを支援する) は重要である (McDonald, 2010)。

今回この原則策定にかかわった実践者は特に農村部や遠隔地において、「サポート」型プレ

イグループのスタッフとしてファミリーサポートの資格、コミュニティ開発に関する資格等を保持しているファシリテーターを雇うことが常に可能であるとは限らないと示した (Joanne & Catheryn, 2017)。

次の4タイプの成功を導くファシリテーションは、Jackson (2013) によって概説され、情緒的なサポート経験の増加、子育てへの自信、またケアラーの孤立感と不平等の減少につながるということがわかった。

- ① 家庭中心の実践：幼児期の質の高い学習環境を作り出すことができ、ケアラーとうまくやりとりするための高レベルの対人スキルも持ち備えるファシリテーター
- ② ケアの要素：ファシリテーターは、ケアラーの話聞き、無条件の受容と尊敬を示し、真の関心とケアを示すことで、家庭との信頼関係を築くことができる
- ③ 場の設定：「サポート」型プレイグループに、社会的およびその他の形態のサポートに対する保護者のニーズを満たすような応答的かつ柔軟な場を設定できるファシリテーター
- ④ ローカルサービスシステムの知識：ローカルサービスと家庭への仲介プロセスについて知識を持っているファシリテーター

丁寧サポートされている「サポート」型プレイグループは、家庭のソーシャルサポートのニーズを満たすと同時に、必要に応じてより正式なサポートにつなげ、威圧的ではない「ソフトなエントリー」地点であると見なすことがある (Commerford & Robinson, 2016)。これは、以下の点を提供できるファシリテーターという形式をとることもある。

- ・親への情報提供
- ・他のコミュニティ組織からの訪問を組み入れる

- ・母子保健看護師、作業療法士、言語病理学者、栄養士 (McDonald et al., 2014) および財務カウンセラー (DEECD, 2011) を含む医療専門家からの訪問を手配
- ・他のサービスや機関と協働し、新しい参加者をプレイグループに募り招く
- ・家庭内暴力やメンタルヘルス支援サービスなどの他サービスへの「丁寧な連携」(ファシリテーターがケアラー/家庭を紹介する場所) を提供

以上、質の向上に必要なプレイグループの9原則に関するそれぞれの行動原則について概観してきた。

## 5. プレイグループの行動指向に関する考察

これまで、オーストラリアにおける質の高いプレイグループを支える9つの主要原則とその行動原則についてみてきたが、明確に教示されたことは、プレイグループの質を高めるために人的環境が大きく影響されるということであろう。それぞれのプレイグループの活動を促進していく実践者、つまりケアラーを含むファシリテーターの質が問われているということである。

実際にプレイグループの活動をするケアラーに求められる専門性について以下にまとめた。

まず「遊び」というキーワードを視点に述べる。この視点において必要な専門性とは、子どもの発達、子どもの興味関心に即した遊びや遊びそのものに関する専門的知識をもとに、子どもの育ちを見通し、その成長や発達を援助するスキルである。つまり遊びの理解・総合的に指導し援助する力が必要であると言える。また地域及びプレイグループの内外の空間や物的環境、様々な遊具や素材、自然環境や人的環境を

生かしたプレイグループの場、そしてその環境を構成していくスキルが重要である。この遊びの視点を土台に、具体的にプレイグループの活動をどのように構想し展開するのかという実践的スキルが求められる。

次に「つながり・連携」という視点からまとめるとするならば、ここでの専門性は地域とプレイグループ、子ども、ケアラー間、子どもとケアラー間などケアラーや地域社会との関係を推進し構築する力ではないだろうか。もちろん、主となるケアラーはプレイグループ集団の一人としての協調性やリーダーシップを持ち備える必要がある。

最後に「人権」の視点から考察すると、プレイグループは場の人的・物的環境から柔軟に対応し変化できるということの理解が必要であるということ。そして相手のスキルなどを尊重せず強制的に実践させるのではなく、構成メンバーの強み・得意分野を生かした育成も今後のプレイグループに大きな力となるという認識をすることが重要となってくる。また、特別な教育的配慮を要する子どもやその家庭、言語的文化的に異なった家庭、様々な困難を抱えた家庭や先住民の人たちへの配慮する力や対応力は「人権」の視点から、行動指向の中でも強調されていた。そして彼らが自主的に生活していく力、つまり生活援助の知識やそのスキルを伝える技術、気持ちに寄り添いながら適切な時に必要な援助ができる関係構築に関するスキルも必要であるだろう。

このようにオーストラリアのプレイグループのケアラーやファシリテーターに求められる専門性は多岐に渡って論じられていた。

## 6. 今後の展望：

### 日本のサードプレイス構築に向けての示唆

本稿では、オーストラリアの質の向上に必要なプレイグループを構築するために策定された原則及びその行動指向から、プレイグループの活動に影響力のあるケアラーやファシリテーターの資質について考察した。では日本において、本格的な人口減少・高齢化社会の到来を迎えていると同時に、日本内外の新型コロナウイルス感染症を目の当たりにし、誰も予想しなかった日常生活の制限を経験した上で、オーストラリアの質を高めるプレイグループの原則からサードプレイスの構築に向けて何を示唆するだろうか。

京都市内では、コロナ禍で接触感染のリスクを減らしたい保護者のニーズを鑑み、貸し切り制度を導入（京都新聞、2021）するなど、親子の遊び場や居場所を提供する動きがでてきており、場や遊びを提供することのみが注目され、かつ急務となっている。これからの時代において、長期間の休みや週末などの期間に有志が遊び場・居場所の提供をするという枠組みを超えて、「地域による地域のための居場所」ととらえ地域住民を巻きこみ、それを実施運営する人材の専門性を問うことの必要性を感じている。地域のサードプレイス構築のための人材育成、そして誰もが自分が居住する地域において多様な人々とともに安心して生活し、住み継がれることを切望しているのではないだろうか。オーストラリアの取り組みが日本のサードプレイス構築の一助、そして人材育成につながると考え、今後ともサードプレイスに必要な人材について探求していく。

## 参考文献・引用文献

ARTD Consultants. (2008). *Evaluation of the playgroup*



- program: Final report for the Department of Families, Housing, Community Services, and Indigenous Affairs.* Sydney: ARTD Consultants.
- Berthelsen, D., Williams, K., Abad, V., Vogel, L., & Nicholson, J. (2012). *The parents at playgroup research report: Engaging families in supported playgroups.* Brisbane: Queensland University of Technology; Playgroup Association of Queensland.
- Boddy, J., & Cartmel, J. (2011). *National Early Childhood Care and Development Programs Desk Top Study. Final report: Prepared for Save the Children.* Brisbane: Griffith University.
- Brockman, R., Fox, K., & Jago, R. (2011). What is the meaning and nature of active play for today's children in the UK? *International Journal of Behavioral Nutrition and Physical Activity*, 8 (15), 1–7.
- Bruce, T., McNair, L., Siencyn, S.W. (2008). *I made a unicorn! Open-ended play with blocks and simple materials.* Community Products (UK) Limited. Retrieved from <http://www.imaginationplayground.com/images/content/2/9/2980/i-made-a-unicorn-open-ended-play-with-blocks-simple-materials.pdf>
- CCCH (Centre for Community Child Health). (2011). *Policy Brief: Community Playgroups in Australia.* Brisbane: Playgroup Australia.
- CCYP (Commission for Children and Young People). (2015). *A Guide for Creating a Child Safe Organisation.* Melbourne. State of Victoria, Commission for Children and Young People.
- Commerford, J., Robinson, E. 2016. *Supported playgroups for parents and children: The evidence for their benefits* (CFCA paper no. 40). Melbourne. Child Family Community Information Exchange, Australian Institute of Family Studies.
- DEECD. 2011. *Guide: Practice principles for planning supported playgroups.* Supported Playgroups and Parent Groups Initiative (SPPI). Melbourne: State of Victoria.
- DEEWR. 2009. *Belonging, being and becoming: The early years learning framework for Australia.* Retrieved from [https://docs.education.gov.au/system/files/doc/other/belonging\\_being\\_and\\_becoming\\_the\\_early\\_years\\_learning\\_framework\\_for\\_australia.pdf](https://docs.education.gov.au/system/files/doc/other/belonging_being_and_becoming_the_early_years_learning_framework_for_australia.pdf)
- Dest (2021) 「レイ・オルデンバーグによるサードプレイスの定義」 <https://meide.jp/dest2021/assets/images/dest2021.pdf>
- FaHCSIA (Department of Families, Housing, Community Services and Indigenous Affairs). (2011). *Family Support Program: Family and Children's Services. Part C: Community Playgroups.* Canberra: FaHCSIA.
- Gibson, H., Harmon, B., Guilfoyle, A. (2015). Social capital in metropolitan playgroups: A qualitative analysis of early parental interactions, *Australian Journal of Early Childhood*, 40 (2), 4–11.
- Hancock, K., Cunningham, N., Lawrence, D., Zarb, D., & Zubrick, R. (2015). Playgroup participation and social support outcomes for mothers of young children: A longitudinal cohort study. *PLoS ONE*, 10 (7).
- Hancock, K., Lawrence, D., Mitrou, F., Zarb, D., Berthelsen, D., Nicholson, J., & Zubrick, S. (2012). The association between playgroup participation, learning competence and social-emotional wellbeing for children aged four–five years in Australia. *Australasian Journal of Early Childhood*, 37 (2), 72–81.
- Hanna, B., Edgecombe, G., Jackson, C., & Newman, S. (2002). The importance of first-time parent groups for new parents. *Nursing and Health Sciences*, 4 (4), 209–214.
- Harman, B., Guilfoyle, A., O'Connor, M. (2014). *Why mothers attend playgroup*, *Australasian Journal of Early Childhood*, 39 (4), 131–137.
- Holzer, P., Bromfield, L., Richardson, N. (2006). *Child abuse prevention: What works? The effectiveness of parent education programs for preventing child maltreatment* (Research Brief No. 1). Melbourne: National Child Protection Clearinghouse, Australian Institute of Family Studies.
- Hunter, C., Price-Robertson, R. (2014). *The good practice guide to child aware approaches: Keeping*

- children safe and well*. Melbourne. Child Family Community Information Exchange, Australian Institute of Family Studies.
- 飯田美樹 (2020) 『カフェから時代は創られる』 クルミド出版.
- Jackson, D. (2011). What's really going on? Parent's views of parent support in three Australian supported playgroups, *Australasian Journal of Early Childhood*, 36 (4), 29–37.
- Jackson, D. (2013). Creating a place to “be”: Unpacking the facilitation role in three supported playgroups in Australia. *European Early Childhood Education Research Journal*, 21 (1), 77–93.
- Joanne, C., Cathryn, H (2017). *Principles for high quality playgroups: Examples from reseach and practice*. Child family Community Australia. Retrieved from <https://aifs.gov.au/cfca/publications/principles-high-quality-playgroups>.
- Leske, R., Sarmardin, D., Woods, A., Thorpe, K. (2015). What works and why? Early childhood professionals' perspectives in effective early childhood education and care services for Indigenous families. *Australasian Journal of Early Childhood Education*, 40 (1), 109–118.
- 京都新聞、区役所支所内の遊び場スペース、貸し切り利用開始 「感染気にせず使って」京都、<https://www.kyoto-np.co.jp/articles/-/654930> (2021年10月11日参照)
- 小林重人・山田広明 (2014) 「マイプレイス志向と交流志向が共存するサードプレイス形成モデルの研究：石川県能美市の非常設型「ひよっこりカフェ」を事例として」『地域活性研究』 Vol.5, pp.3-12.
- 厚生労働省ホームページ  
<https://www.mhlw.go.jp/stf/corona5rui.html> (2023年5月8日参照)
- McDonald, M. (2010). *Are disadvantaged families “hard to reach”? Engaging disadvantaged families in child and family services*. Melbourne. Communities and Families Clearinghouse Australia, Australian Institute of Family Studies.
- McDonald, M., Turner, C., & Gray, J. (2014). *Evidence into action: Playgroups for diverse communities*. Melbourne: Victorian Cooperative on Children's Services for Ethnic Groups.
- Mead, S., Hilton, D., Curtis, L. (2001). Peer Support: A theoretical perspective, *Psychosocial Rehabilitation Journal* (25) 2, 134–144.
- Moore, T., McDonald, M., McHugh-Dillon, H., West, S. (2016). *Community Engagement: A key strategy for improving outcomes for Australian families*. Melbourne. Child Family Community Information Exchange, Australian Institute of Family Studies.
- Myers, J., Gibbons, K., Arnup, S., Volders, E., & Naughton, G. (2015). Early childhood nutrition, active outdoor play and sources of information for families living in highly socially disadvantaged locations. *Journal of Paediatrics and Child Health*, 51 (3), 287–293.
- National Childcare Accreditation Council. (2006). *Safety in Children's Services*. Retrieved from [http://ncac.acecqa.gov.au/educator-resources/factsheets/qias\\_factsheet\\_%202.pdf](http://ncac.acecqa.gov.au/educator-resources/factsheets/qias_factsheet_%202.pdf)
- Oldenburg, R. (1989) *The great good place*, New York: Marlowe & Company (忠平美幸訳(2013) 『サードプレイス：コミュニティの核になる「とびきり居心地よい場所」』).
- Owens, A. (2012) Curriculum decision making for inclusive practice, National Quality Standard e-Newsletter (38). Retrieved from [http://www.earlychildhoodaustralia.org.au/nqsplp/wp-content/uploads/2012/07/NQS\\_PLP\\_E-Newsletter\\_No38.pdf](http://www.earlychildhoodaustralia.org.au/nqsplp/wp-content/uploads/2012/07/NQS_PLP_E-Newsletter_No38.pdf).
- Playgroup NSW. (2015). Retrieved from <http://www.playgroupnsw.org.au/playgroups1/PlaygroupSupport>
- Playgroup WA. (2016). Retrieved from <http://playgroupwa.com.au/playgroups/types-of-playgroups/>
- PRTIME「第三の場所（サードプレイス）に関する実態調査」コロナ流行後、自宅でも職場でもない「第三の場所」を求める人が増加  
<https://prttime.jp/main/html/rd/p/000000113.000047162.html> (2023年5月2日閲覧)

- Strange, C., Fisher, C., Howat, P., & Wood, L. (2014). Fostering supportive community connections through mothers' groups and playgroups. *Journal of Advanced Nursing* 70 (12), 2835–846.
- 高谷邦彦 (2019) 「サード・プレイスとしての Twitter - 子育て主婦ユーザの場合 -」『名古屋短期大学研究紀要』 vol.57, pp.1-13.
- Wanless, S. (2016) The role of psychological safety in human development, *Research in Human Development*, 13 (6), 614.
- Warr, D., Mann, R., & Forbes, D. (2013). Once you've built some trust: Using playgroups to promote children's health and wellbeing for families from migrant background., *Australasian Journal of Early Childhood*, 38 (1), 41–48.
- Weber, D., Rissel, C., Hector, D., & Wen, L.M. (2014). Supported playgroups as a setting for promoting physical activity of young children: Findings from a feasibility study in south-west Sydney, Australia. *Journal of Pediatrics and Child Health*, 50 (4), 301–305.
- Williams, K.E., Berthelsen, D., Nicholson, J.M., Viviani, M. (2015). *Systematic literature review: Research on Supported Playgroups*. Brisbane: Queensland University of Technology.
- Williams, R. (1999). Cultural safety—what does it mean for our work practice?, *Australian and New Zealand Journal of Public Health*, 23 (2), 213–214.

*Abstract*

## Research on roles and human resources regarding the Third place for children and adults

Tomomi HIRANO

This paper examines to create Third place for children and adults, and examines what kind of human and physical environment can provide such Third place. In particular, this paper focuses on the role and human resources of Third places. To reassess the role, the paper explores what kind of human resources should be produced, focusing on Australian playgroups, which are close to the concept of Third place. The method centers on the nine principles of playgroups necessary for quality improvement, and by clarifying what kind of action-oriented perspective should be taken in implementing activities, suggestions are obtained for the construction of Third place in Japan.